

おまえが殺した

吉田 浩二

登場人物

伊藤 純一（35）

財前 武（40） 医者

伊藤 明子（30） 伊藤の妻

伊藤 彩（10） 伊藤の娘

○市立病院外観

○同・手術室前

手術室に担架が運び込まれるところ。

担架の上には伊藤 明子（30）が横たわっている。

担架に追いつがる伊藤 純一（35）

長身でイケメンの医者、財前 武（4

0）と看護師が来る。

伊藤「妻を。妻をどうか。どうか妻の命を」

財前「大丈夫ですよ。最善を尽くしますので」

伊藤「先生、先生だけが頼りです」

看護師「先生はガン治療の第一人者です。安

心して任せて下さい」

手術室のドアが閉まる。伊藤は手を合
わせている。

○同・病室

明子がベッドで寝ている。

そばの椅子に座る伊藤。

伊藤「もう安心だな」

やつれた明子がうなづく。

財前が入って来る。

伊藤「このたびは本当に……」

財前「転移が見つかった。再手術の必要がありません」

伊藤「え？」

財前「お金がかかりますが命には代えられませんので」

伊藤「1回の手術で直るんじゃない」

財前「いえ、そう簡単には」

伊藤「明子。もう1回手術が必要なんだ。身体は大丈夫か」

明子「もう手術はしたくない」

財前「ガンを削除しないと、全身に広がりますよ。小さいうちに片づけましょう」

明子「でも」

財前「私に任せて。勇気を出してガンを退治しましょう！」

○消費者金融・内

伊藤が男と向きあってカウンターに座っている。

男「200万ですね」

伊藤「はい」

男「前回の分と合わせて400万になります」

伊藤「お願いします」

男「こんな大金。何に使われてるんですか」

伊藤「妻がガンなんです。命はお金には代えられませんから」

男「そうですか。お気の毒に」

○マンション・外観（夜）

○同・リビング

伊藤と伊藤 彩（10）がテーブルで向き合って座っている。

伊藤「お母さんが戻って来るまで、もう少しの辛抱だからな」

彩「いつ戻って来るの」

伊藤「彩がいい子にしてたら、来月には戻って来る」

彩「彩、お母さんの料理が食べたい」

伊藤「お父さんも：：食べたよ」

と、涙を浮かべる。

○手術室前

明子を載せた担架が来る。伊藤が付き添っている。

明子「今までありがとう」

伊藤「おい、何を言うんだ。これで良くなら

なきゃ。頑張れ」

財前「時間ですから。通してください」

担架は手術室に入り、ドアが閉まる。

伊藤「明子。あきこー！」

と叫ぶ。

○手術室前（夜）

伊藤がベンチに座っている。

何か呟きながら祈っている。

手術室入口の灯りが消える。

財前たちが出てくる。

伊藤「明子は。明子はどうしました」

看護師「最善を尽くしましたが」

と首を振る。

伊藤はその場に崩れ落ち、泣き出す。

○伊藤の家・リビング（夜）

伊藤と彩がご飯を食べている。

仏壇に明子の笑顔の遺影が飾ってある。

伊藤「くよくよしてても仕方ない。前を向こ

う」

彩はうなづく。

伊藤「お父さん、明日、同窓会だから遅くなる。一人で留守番して」

○ホテル外観

○同・ホール

伊藤達が立食している。

男1 「元気だしなよ」

伊藤 「ああ」

男2 「佐藤ってガリ勉いたじゃん。あいつアメリカで医者やってたって」

佐藤が来る。

佐藤 「やあ、みんな久しぶり」

男1 「噂をすれば影だな」

男2 「おまえ医者なんだって」

佐藤 「そうだよ」

男1 「外科医か？」

佐藤 「ガン専門だ」

伊藤は顔を上げる。

伊藤 「妻はガンにやられたんだ」

佐藤 「そりゃ、お気の毒に」

伊藤 「4回手術したんだが、ダメだった」

佐藤 「なに？手術を4回？アメリカじゃ手術しないやり方に替わってきてるぜ」

伊藤 「え？」

佐藤はスマホをいじり、手術回数と生存率に関するグラフを伊藤に見せる。

佐藤「こういう結果も出ている」

伊藤はわなわなと震えだす。

佐藤「どうした？」

伊藤「失礼」

顔を伏せたまま伊藤はホールを出ていく。

佐藤「一言、相談してくれたらよかったのに」
級友たちはどうしたのかとざわついている。

○病院・受付

伊藤が受付にいる。

受付「財前先生は時間が取れないと言われて
ます」

伊藤「納得のいく説明をしてほしいんだ」

受付「ですから、時間がないと」

財前が通りかかる。

伊藤「財前！」

財前「どうしました」

伊藤「明子を殺したな」

財前「殺した？失礼な。我々は精一杯やった。

あなたも手術には合意したでしょ」

伊藤「手術しない方が生存率が高いと聞いたぞ。知ってたのか」

財前「知りませんね。私は忙しいのでこれで」

看護師「明日は時間取れるのでは」

財前「休日だよ。休みの日に働けと言うのかね」

看護師「山登りですか」

財前「ああ、たまにはリフレッシュしないと」

伊藤「山登り？」

と呟く。

○市民病院・駐車場（夜）

財前が車に乗り込み、車が駐車場を出て行く。伊藤の車がそれを追う。

○財前の家

一戸建ての豪邸。財前の車が入って行く。伊藤の車が近くに止まる。

伊藤は財前が家に入って行くのを確認する。

○伊藤のマンション・彩の部屋（早朝）

彩が寝ている。伊藤が枕元に立っている。

伊藤「彩。パパはママの敵を取って来るよ」

○榛名山外観

○同・榛名山駐車場

財前が車から降りる。その近くの車から伊藤が降りる。

伊藤は財前の後をつけて行く。

○山道・開けたところ

財前が背伸びをしている。伊藤が来る。

伊藤「財前！」

財前はぎよっとして振り向く。

財前「なんだ、あんた。ストーリーカーか」

伊藤「明子に謝罪しろ」

財前「謝罪？なんでだ」

伊藤「おまえは自分さえ稼げれば、他人はど
うなってもいいのか」

財前「（にこやかに）当たり前じゃないか。我々
は慈善事業をしているわけじゃない」

伊藤「きさまあ！」

とナイフをかまえ財前に駆け寄る。

遠くから団体客の声がする。

揉みあっている伊藤と財前。

財前「あなた、殺人犯になるのか。残された

あなたの子供はどうなる」

伊藤の手が止まる。

財前「今の時点で殺人未遂だ。訴えてもいい
んだぞ」

伊藤はぶるぶる震える。

伊藤「こ、このままですむと思うなよ」

伊藤はナイフを持って逃げて行く。